

# 平成30年度 第3回社会教育委員会議 会議録

日 時 平成31年3月26日(火)

午前10時 開会

会 場 中央公民館 1階 集会室

出席委員／ 徳丸、佐藤(一)、山野、新妻、平井、佐藤(則)、松崎、上野、前野、前川 各委員  
欠席委員／ 茂呂、須賀、杉山、佐藤(教)、智内 各委員  
議事参与者／ 松本教育長、渡部教育部長、加納館長(中央公民館)、岡部館長(東公民館)、  
星野館長(西公民館)、坂本館長(南公民館)、鈴木館長(北町公民館)、  
小栗館長(図書館)、井田館長(旭町公民館・指定管理者)  
事務局／ 松永生涯学習スポーツ課長、野田生涯学習スポーツ課長補佐・スポーツ推進係長、  
竹田生涯学習スポーツ課主査、深津生涯学習スポーツ課主事

1 開 会 午前10時

2 あいさつ

徳丸 議長

3 前回会議録の承認

承認された。

4 議 事

・報 告

(1) 生涯学習関連事業等について

【資料1】

上記のことについて、事務局から報告があった。

委 員： 質疑なし。

(2) 音楽によるまちづくり推進事業について

【資料2】

上記のことについて、事務局から報告があった。

委 員： チケットのインターネット販売実績はどのようか。

事務局： 8月下旬からインターネットでのチケット販売を行った。2種類のコンサートチケットをインターネット販売したが、それぞれ約20枚の売り上げがあった。

**(3) 放課後子ども教室推進事業について**

**【資料3】**

上記のことについて、事務局から報告があった。

委員： 質疑なし。

**(4) わらび学校土曜塾推進事業について**

**【資料4】**

上記のことについて、事務局から報告があった。

委員： 質疑なし。

**(5) 平成31年度生涯学習関連予算について**

**【資料5】**

上記のことについて、事務局から報告があった。

委員： 質疑なし。

**・協 議**

**(1) 第2次蕨市子ども読書活動推進計画について**

**【資料6】**

上記のことについて、図書館から報告があった。

委員： 図書館の利用の有無のデータについて、利用したことがない小中学生もいるが、かなり高い利用率であると思う。蕨市の小中学生の閲覧総数をお伺いしたい。また、場所も分からない人がいるようだが、その要因はどのように分析しているのか。

事務局： 蕨市内の小中学生の閲覧総数については、把握できない。小中学生の利用人数は出せるが、その中に蕨市の小中学生がどれくらい含まれているかは分からない。

委員： 私は、大人よりも子どもの方が利用率は高いという認識を持っている。そういう傾向はあるか。

事務局： 市内の小中学生については、学校で図書館に見学に来ることがあるので、その際に登録してもらっている。ただし、塚越や錦町など、遠くの学校の場合は、道路等の都合でなかなか見学に来られない場合もあるが、来館のある学校については、その際に登録してもらっている。また、場所が分からない方については、特に小学生だと、道路等の関係で、図書館の近隣以外の児童については、近くにないので分からないということではないか。

委員： ブックモバイル、団地などに周知のチラシを置く等の努力はしているか。

- 事務局： 図書館分館の方が近ければ利用してもらっていると思う。本館については、小中学生の場合、近くに住んでいなければ利用していないようだ。
- 委員： 貴重なデータなので、計画の中で何らかの形で利用いただきたい。学校からの見学という話があったが、子どもにとっては重要な経験。一昨年、山口県の図書館で参考になる事例があった。子ども達の利用を高めるために、小学校3年生をターゲットに図書館を冒険するプログラムを組み、全小学校で実施した。内容は、遊びを通して、本の探し方を体験するというものである。それによって子ども達の利用が増え、自分で本を探す習慣がついたという報告がある。読ませるよりも、図書館を利用する子どもを増やすことが、社会教育の視点からできる取り組みではないか。子ども達が図書館に足を運びきっかけを作り、読書環境を充実させていくという、アイデア次第で「身近な図書館」を実現できると思う。
- 事務局： 蕨市でも、夏休み期間に図書館探検隊という、本を探す等の取り組みを実施している。今後も子ども達が楽しんで利用いただけるよう検討していく。
- 委員： 公民館はコーディネート能力が高いと思っているが、図書館は単独で完結するので、なかなかコーディネーター的な働きをする方もいなく、難しいと思う。わらび学校土曜塾や社会教育的な活動をしている様々なボランティアをしている方々と、図書館が連携するというやり方もあるのでは。いかにして地域の方の協力を得ながらコーディネート機能を高め、図書館の利用率を上げていくかということも、計画に入れると有意義かと思う。
- 事務局： 計画のポイントの1つに、連携というがあるので、その中で図書館のイベント等にボランティアの方の協力を得られるように取り組んでいきたい。
- 委員： 私は、公民館で朗読の活動を35年間している。その活動の中で、塚越小学校と東中学校で、単発的に1年間、朗読教室をしていた。最後に発表会を行ったが、はじめは立ち歩いていた子どもたちも、落ち着きを取り戻して、発表会の時はとても上達していた。中学校では文芸作品を取り組んだが、文芸作品を読む習慣がない子が多かった。このような事業を継続して実施することで、読書に対する興味や、本に対する楽しみを持たせることができる。本を読む量によって、人間関係の醸成が全く違う。相乗効果として、学校の生活態度にも現れてくると思う。
- 事務局： 計画の中で、読書週間の形成があるので、様々な形で、取り組んでいきたい。
- 委員： 朗読教室の取り組み内容について、もう少し詳しく聞きたい。
- 委員： 小学校で1年間、朗読教室をした時には、学校の図書から自分の好きなものを選ばせたが、本を決めることさえも、子ども達は難しいようだった。どういう話が好きかとか、一人ひとり接しているうちに、だんだんと自分がどんな話が好きかを発見している様子だった。最後に発表会をした際には、子

ども達の学習効果を感じたので、継続していかなければいけないと感じた。中学校の時には、身近なエッセイに対する感想、有名な詩、文芸作品をそれぞれ分担して読んだ。はじめはおしゃべりをしている生徒もいたが、最後は本当に静かになった。継続されたらうれしいと思ったが、その後お声がかからなかったのもそのままになってしまった。朗読は読解力が重要なので、活字に親しむには有効である。活動の中で新聞の社説やニュースを読み上げて録音することがあるが、繰り返し読むので、その中で取り扱われている数字等は頭に自然と入っていることが多い。

委員： ボランティアという言葉が出ているが、私もボランティアで学校の読み聞かせをしている。もともとは、昼休みに希望者の児童のみに実施していたが、ここ数年は朝の読書時間に10分間、教室で読み聞かせをしている。この取り組みが拡大できた理由としては、保護者だけでなく、地域のサークルや学校からの協力を得られたからだと考える。また、ボランティアの方々も、活動の場が広がり、生きがいの創出にもなっている。今回の計画の中で、ボランティア活動推進の具体的な例として、図書ボランティアで学校図書館の環境を整備と記載されているが、図書ボランティアはもともと、とても少人数で実施しているので、なかなか担い手がない状況ではないかと考える。例えば、私たちのように各学校で活動しているボランティアの人数はカウントされているのか。図書館で把握しているボランティアのほかに、各学校で活動しているボランティアなど、横のつながりを把握していない場合があるので、状況を知りたい。互いに情報提供ができる仕組みがあるとありがたい。

事務局： ボランティアについて、図書館で把握している分しか計画には入れていない。図書館でも情報収集をして、状況を把握し、有効活用したい。

委員： 読書を支援する取り組みの中に、「すべての子ども達が本を楽しめるよう、LLブックや点字の本を含め図書を充実させる。」とあるが、実際点字の本は何冊くらいあるのか。充実させるということは、購入の予定があるのか。私が所属している点字サークルでは、市販されている絵本等にシールの点字を付ける活動を行っている。また、小中高生のボランティア活動の団体もあるが、その中で絵本に点字シールを付けるボランティアをしている。そういった活動の中で、図書館にある本に点字シールを張り付けるという作業も可能なのではないかと思う。障がいを持っている子ども達は、例えば、声を出してはいけない場所で声を出してしまったり、立ち歩いたりするが、私が参加している放課後子ども教室の活動の中で、発達障害を持っている子どもが、本を楽しそうに読んでいる様子を見ている。図書館だったら黙読しかできないが、小学校の図書室だったら声を出しても平気なので、学校内での本を読める環境も必要だと思う。計画では「障がいのある子どものための諸条件の整備・充実」と記載されてあるが、具体的にどのような取り組みか。

また、プレーパークや子ども食堂の中で、図書館のリサイクル本を貰い、それを置いている。子ども達は、外遊びをしながらでも、本を読みたい子は本を読んでいるので、いろいろなところに本がある環境が重要だと思う。

さらに、ボランティアについて、朝の読み聞かせと、図書ボランティアをしたことがある。朝の読み聞かせは、子ども達が楽しみにしてくれていた。中でも、父親が参加してくれたことがあり、子ども達にもとても印象に残ったようだ。なかなか参加できないかもしれないが、父親の参加もあるといいと思う。図書ボランティアについては、存在自体が、周知されていないように感じる。「これだったら参加できるのに」と思う人もいると思う。幅広く募集したらどうか。

事務局： 点字本について、現状、子ども向けがあまりないので、これから増やしていきたい。障がいのある子ども達については、様々な対応が必要になるので、少しずつだが、充実させていきたい。父親の話があったが、最近、土日になると、子どもを図書館に連れてくる父親が増えてきている。父親と一緒に本を読んだり、選んだりする姿をよく見る。障がいのある子どもがしやすい環境については、個別の対応になるので、後手後手になっている部分はあると思う。準備して対応できるようにしたい。

委員： 図書館から学校のクラスごとに本を貸し出してくれる取り組みがあるかと思う。私は、学童保育の手伝いをしているが、学童保育は夏休みになると一日中学童室にいて煮詰まってしまうので、もし可能であれば、学校に貸し出さない分を学童保育に回してもらうことはできないか。

事務局： 検討していく。

## **(2) 改訂第3次蕨市生涯学習推進計画について**

**【資料7】**

上記のことについて、事務局から報告があった。

委員： 質疑なし。

## **(3) 蕨市社会教育関係団体認定基準運用要項の改正について**

**【資料8】**

上記のことについて、事務局から報告があった。

委員： 質疑なし。

## **(4) 社会教育関係団体の認定について**

**【資料9】**

3件の認定申請があり、事務局から説明があった。

～協議の結果、3団体が承認された。

委員： 質疑なし。

## 5 その他

委員： 社会教育関係団体と、公民館利用団体のあり方について意見がある。近年、これらの団体から、「公民館は社会教育の施設である」という認識が抜け落ちているように感じる。利用団体の中には、認定基準を満たして満足してしまい、公民館の清掃等と呼びかけても、参加しない等、地域貢献や公民館を貸してもらっているという意識が欠如している団体がある。その温度差をどのように埋めていくか。

事務局： 社会教育関係団体・公民館利用団体の意識については、事務局はもとより、様々な形で活動いただいている社会教育委員の皆さまからも、働きかけをいただきたい。

## 6 閉 会

新妻 副議長

正午 閉会